

平成 17 年 11 月 28 日

社団法人日本歯科医師会
会 長 井 堂 孝 純 殿

日 歯 改 革 検 討 委 員 会
委 員 長 水 野 肇

日歯改革検討委員会最終答申

第一次答申では、前会長らの一連の不祥事の因って来るところを明らかにすると共に、日本歯科医師会（日歯）の改革すべき点を示した。

これを受け、日歯は外部監査を導入、会長選挙方法を改革、日歯連との峻別を実行し、さらに第一次答申を踏まえ「さらなる改革に向けて」を公表、本委員会を監視機構と位置づけ、引き続き改革に取り組んでいる。

本委員会は、国民にとって望ましい歯科医療とはなにか、それを実現するためにはどのような取り組みが必要なのかについて検討をかさね、このたび、国民が求める歯科医療とは何かを明らかにし、歯科医師の努力と意識改革を促すと同時に、そのために日歯が取り組むべき課題を記し、最終答申とする。

○歯科医師の課題

日歯が行った「日本歯科医師会の広報活動に対する調査」（平成 17 年 7 月）の結果、歯科医師（歯科医院）のイメージは、親切、真面目、信頼できるというように肯定的な評価がある一方、治療費に対する歯科医師の説明や内訳が分かりにくいとする回答が半数近くを占め、評価は低かった。ⁱ

患者に対する説明不足がアンケートの結果からうかがえる。このことは深刻に受けとめる必要がある。歯科医師に治療の内容や他の選択肢を十分説明して欲しい、費用の内訳を明確にして欲しいとする声が多い。

患者が常に求めているものは、詳しい治療内容・治療期間や費用の内訳等であり、患者本位の医療の立場からも歯科医師の説明責任は極めて大きい。

そこでまず、歯科医師が行うべきことはインフォームド・コンセント（患者に十分な説明を行った上で、患者自らが医療を選択する）の徹底である。具体的には、「病名、病状とその原因」、「治療法の内容と予想される効果」、「治療の必要性、他の選択肢」、「治療行為の結果起こり得る危険性の有無と程度」、「予後、副作用」、「治療期間の目安」、「保険適用の有無、治療費用の概算」などがあげられる。また、セカンドオピニオン、カルテ開示についても当然求めに応じるべきである。

さらに同調査で、歯科医師や診療所によって技術に差があるという回答が82.1%あった。アンケート結果から、国民は一定水準の歯科医療技術を求めていることがわかる。

歯科疾患に対する確かな診断を下し適切な治療法を選択し、患者に十分説明して同意を得て、確実に治療を行うことは歯科医師の必須条件であり、生涯にわたって最新の歯科医学・医術の動向を把握し、必要な知識や技術を身につけ、日常臨床に活かすことは職業上の責務である。

○日歯の課題

日歯に求められる課題のひとつは「日歯生涯研修事業」の内容のさらなる充実と、会員の研修達成率向上を図ることである。

研修内容が常に安全で良質な歯科医療の提供に資するよう見直し、同時に研修をいつでもどこでも自由に行えるような体制、たとえばインターネットを利用した研修システムや、ネットを利用した最新研究・知見の積極的な提供等、利用しやすい生涯研修事業の整備が急務である。

さらに、日歯は専門団体として良質で安全な歯科医療を提供するため、最先端の歯科医療の研究・開発を図るとともに、常に内外に向かって、広く政策提言を行うべきである。そのために常設の研究機構の創設を求めたい。

たとえば、生活習慣病である糖尿病と歯周病治療について、歯周病治療が二次的に血糖のコントロールにつながるなどの研究結果がある。また、高齢社会における口腔と全身の健康に関して、歯が多く残っている高齢者の健康状態がよいとする調査もある。ⁱⁱ

こうした調査研究のデータを活用して政策提言に結び付けることが、この研究機構の役割である。

このために、将来展望にたち広く国内外の最新情報を収集・分析する調査事業を実施し、集積したデータを公開ができるように常に整理分類し、研究者やマスコミに提供していく体制を整えることである。

日歯に対して広報活動の充実を求めたい。

国民からみて日歯の活動内容が不透明で分かりにくいとする回答が、先の調査で 75.2% あった。日歯に対するイメージは「閉鎖的・不透明」であり、「政治献金問題」、「政治団体・圧力団体」、「歯科医師の集まり・業界団体」、「患者の事を考えない利権団体」と否定的であった。

従って、日歯は一連の不祥事を契機に深い反省を経てこのように変わった、あるいは変わろうとしているという姿を示すためにも広報活動の充実強化が必要である。

安全で良質な歯科医療とはどういうものか、それを実現するためどのような方策を講じているのか、また会員はどのように自ら生涯研修を行いその成果はどう上がっているのか等、日歯の行っている事業をこれまで以上に国民に分かりやすい形で広報することが大切である。

これまでともすれば日歯は自らの業界内の利益を中心に会務を執行していると見られてきた。今後は、二十一世紀の国民歯科医療の確立に向け、社団法人として本来の公益事業を中心にすえた事業の展開が必要である。 (了)

(開催状況)

〈全体委員会〉

第6回委員会：平成17年3月30日

第7回委員会：平成17年4月25日

第8回委員会：平成17年6月2日

第9回委員会：平成17年9月13日

第10回委員会：平成17年10月24日

第11回委員会：平成17年11月28日

〈正副委員長・WG座長打合せ〉

第4回打合せ：平成17年4月25日

第5回打合せ：平成17年5月9日

第6回打合せ：平成17年8月5日

第7回打合せ：平成17年10月6日

第8回打合せ：平成17年10月21日

第9回打合せ：平成17年11月14日

日 歯 改 革 検 討 委 員 会

委 員 長 水 野 肇

副委員長 増 田 進 致

委 員 石 井 拓 男

奥 田 基 樹

河 上 和 雄

(WG 座長) 渡 辺 俊 介

工 藤 憲 生

宮 村 一 弘

永 井 龍 介

オブザーバー 内 山 文 博

柏 木 勇 一

i (参考資料)

「日本歯科医師会の広報活動に対する調査総合分析」(株式会社電通パブリックリレーションズ)

平成 17 年

【歯科医師・歯科医院の現状に対する評価】

プラスイメージ

項目	評価できる %
歯科医院の病室や待合室の清潔さ	70.5
歯科医院の受付の対応	65.0
歯科医院の病室や待合室の雰囲気	57.3
治療に対する説明のわかりやすさ	56.6
治療に対する歯科医師の事前の説明	54.8
歯科医師の治療の技術	50.3

マイナスイメージ

項目	評価できない %
治療費の値段	38.5
治療費に対する歯科医師の説明	45.7
治療費の内訳のわかりやすさ	49.1

【歯科医師と日本歯科医師会のイメージ比較】

プラスイメージ

項目	歯科医師 (歯科医院) %	日歯 %
収入が高い	75.6	—
親切である	48.2	2.3
真面目だ	46.6	9.3
信頼できる	46.3	8.5
技術が高い	40.7	—
社会的評価が高い	40.5	17.2
安心感がある	38.8	7.4

マイナスイメージ

閉鎖的	31.2	52.1
不透明	—	55.7
非庶民的	29.2	58.9
身近でない	28.4	63.4

【歯科医師・歯科医院をめぐる状況の評価】

項目	歯科医師 (歯科医院) %
医師や医院によって、技術の差がある	82.1
医師や医院によって、患者への接し方に差がある	63.5
良い医師や医院に関する情報が少ない	63.4
医師や医院によって、治療費に違いがある	57.7
あてはまるものはひとつもない	3.3

【日歯に対する認知者の評価】（複数回答）

項目	%
国民には、活動内容がよくわからない	75.2
政治家とのつながりが強い	59.3
厚生労働省などの医療行政官庁とのつながりが強い	48.1
お金儲けの意識が強い	42.8
歯科医師の身内意識が強い	42.6
献金などの活動が、疑惑を持たれやすい	41.5
歯科医師の立場にあぐらをかいている	36.5

ii▽厚生労働科学研究費補助金（医療技術評価総合研究事業）分担研究書：「地域住民の口腔保健と全身的な健康状態の関係についての総合研究 歯周病と糖尿病一介入試験の結果報告一」（分担研究者 井上修二 共立女子大学家政学部教授）平成 15 年度

【糖尿病患者における歯周病治療が二次的に血糖コントロールの改善をもたらすことを示唆された、とする研究報告】

▽「8020達成者の健康状態調査報告書 ～残存歯数分類による比較～」（平成 16 年 3 月）兵庫県・兵庫県歯科医師会

【残存歯数が少ない群は残存歯数が多い群より医科の医療費が多い、とする報告】